

消防職員アンケートの項目及び集計結果
(警防業務における安全管理等に関する職員アンケート)

対象者 : 現在、消防署(出張所及び分署を含む。)において警防活動に従事している消防局職員
実施期間 : 令和5年11月8日(水)から同年11月26日(日)まで

回答総数 : 669件

Q1 あなたの階級を教えてください。

	消防士	消防士長	消防司令補	消防司令	消防司令長	計
人数	122	226	183	121	17	669
割合	18.2%	33.8%	27.4%	18.1%	2.5%	100%

Q2 あなたの年代を教えてください。

	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代以上	計
人数	184	219	148	118	669
割合	27.5%	32.7%	22.1%	17.6%	100%

Q3 あなたの平成27年度まで(消防救急広域化前)の所属を教えてください。

	静岡市消防局	2市2町※の消防本部	平成28年度以降に入庁	計
人数	382	151	136	669
割合	57.1%	22.6%	20.3%	100%

※2市2町 : 島田市・牧之原市・吉田町・川根本町

Q4 あなたにとって働きやすい職場とはどのような職場ですか。【自由記載】

(主な回答の類型とその件数)


風通しの良い職場	444 件
・年代を問わず意見交換ができる職場	(358 件)
・ハラスメントや差別がない公平な職場	(42 件)
・意見が適切に反映される職場	(6 件)
・「風通しの良い職場」のみ	(38 件)
公私のメリハリがある職場（ワークライフバランスの充実含む。）	38 件
業務量が適正な職場	32 件

(主な回答の内容)

- 年代を問わず意見交換ができる職場
 - ・上司が部下の意見を集約し、かつ適切に反映してくれる職場。
 - ・上司から部下に対しても相談ができ、チームとして業務に当たれる職場。
 - ・年代、職位を問わず様々な意見を取り入れ、柔軟な対応ができる職場。
 - ・職員同士がそれぞれの考えを尊重することができ、フォロー体制が充実している職場。
- ハラスメントや差別がない公平な職場
 - ・各種ハラスメントがない職場。
 - ・派閥や慣習に囚われず、職員相互に尊重しあえる職場
- 意見が適切に反映される職場
 - ・自らの意見がより良い意見として深められ、反映される職場。
- 公私のメリハリがある職場（ワークライフバランスの充実含む。）
 - ・一定の規律を保ちながらも、指摘や相談は職位を問わず行える職場。
 - ・活動に当たっては統率が取れていて、かつ円滑なコミュニケーションが可能な職場。
 - ・ワークライフバランスが徹底され、オンとオフの切替が行いやすい職場。
 - ・業務時間、休憩時間のメリハリがあり、モチベーションが維持しやすい職場。
- 業務量が適正な職場
 - ・配属先に関わらず業務量が適正に分担されている職場。
 - ・職位（現職・再任用問わず）による業務量に偏りがなく、均等に業務を負担する職場。
- その他
 - ・災害に強い消防組織づくりのために、十分に訓練を行える職場。
 - ・指揮命令系統や各職員の役割（任務）が明確な職場。

Q5-1 あなたの職場は、自分の意見を言いやすい職場だと思いますか。

		自分の意見を言いやすい職場だと思う。	自分の意見を言いやすい職場だと思わない。	
全体		468件 (70.0%)	201件 (30.0%)	
階級別	消防士	99件 (81.1%)	23件 (18.9%)	
	消防士長	155件 (68.6%)	71件 (31.4%)	
	消防司令補	123件 (67.2%)	60件 (32.8%)	
	消防司令	77件 (63.6%)	44件 (36.4%)	
	消防司令長	14件 (82.4%)	3件 (17.6%)	
年代別	20歳代以下	145件 (78.8%)	39件 (21.2%)	
	30歳代	153件 (69.9%)	66件 (30.1%)	
	40歳代	83件 (56.1%)	65件 (43.9%)	
	50歳代以上	87件 (73.7%)	31件 (26.3%)	
採用団体別	H27年度以前	静岡市消防局	278件 (72.8%)	104件 (27.2%)
		2市2町の消防本部	84件 (55.6%)	67件 (44.4%)
	H28年度以降の静岡市消防局		106件 (77.9%)	30件 (22.1%)

 Q5-2へ

Q5-2 どのような場面で自分の意見を言いにくい職場だと感じますか。【自由記載】

(主な回答の種類とその件数)

意見をしても反映されなかったり否定されたりする組織風土である。	60件
上席者、発言力のある者及び経験豊かな者と異なる意見が言いづらい組織風土である。	29件
上席者の態度に課題がある。	21件
職員個人が意見をすることを望まない組織風土である。	18件
信頼関係が築けていない又はコミュニケーションが不足している。	8件

(主な回答の内容)

○意見をしても反映されなかったり否定されたりする組織風土である。

- ・意見を発信すると、組織批判と言われたり否定しかされない。
- ・改善しようと思いついても声の大きい職員にはばまれ、試験的に行うこともできない。
- ・意見を言っても昔からやっていることだからなど、改革する様子が見られない。
- ・今までに意見を言ったことはあるが、結局上の人々が都合がいいようにまたは、元の状態に戻すもしくは、静岡はこうだからで終わるのでもう言うてはいない。
- ・組織が大きくなりすぎていて、下の意見が上まで届かない。

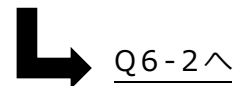
○上席者、発言力のある者及び経験豊かな者と異なる意見が言いづらい組織風土である。

- ・特定の人々の発言力や影響力が強い傾向にあり、その人と違う意見があっても言い出すことができない雰囲気がある。

- ・上下関係が重んじられる傾向にある。そのため、正しい、正しくないにかかわらず、上司の命令に従いがちな傾向にある。
- 上席者の態度に課題がある。
- ・上司という立場から、部下や後輩に対し高圧的な態度で、接するため発言しづらい。
 - ・階級社会であるがために部下から上席者へ意見の具申がしにくい職場であることはある程度仕方がないことだと思う。だからこそ、上席者から部下の意見を聴く姿勢を見せ、意見があった場合はその意見に対して積極的に対応する姿勢が必要であるが、今はそれがない。
- 職員個人が意見をすることを望まない組織風土である。
- ・意見を言うと生意気なやつだという雰囲気がある
- 信頼関係が築けていない又はコミュニケーションが不足している。
- ・コミュニケーション自体ができていない職場である
 - ・パワハラを逆手に取り、若年層の職員が自分の権利意識ばかりを主張し、厳しい指導がしにくい環境であるため、コミュニケーションを取ることをやめ、自分のことしか考えない職員が増えている。指導をあきらめてしまった職員（上司）もいる。
- その他
- ・消防署から消防局に対して意見が言いづらい

Q6-1 あなたの職場は、警防活動及び警防業務の安全管理について、定期的に検証をして見直しをしたり、本市や他都市で警防活動に係る事故が起きた場合に速やかに検証をして見直しをしたりする職場だと思いますか。

		そのような検証及び見直しをする職場だと思う。	そのような検証及び見直しをする職場だと思わない。	
全体		547件 (81.8%)	122件 (18.2%)	
階級別	消防士	112件 (91.8%)	10件 (8.2%)	
	消防士長	186件 (82.3%)	40件 (17.7%)	
	消防司令補	148件 (80.9%)	35件 (19.1%)	
	消防司令	84件 (69.4%)	37件 (30.6%)	
	消防司令長	17件 (100.0%)	0件 (0.0%)	
年代別	20歳代以下	167件 (90.8%)	17件 (9.2%)	
	30歳代	174件 (79.5%)	45件 (20.5%)	
	40歳代	106件 (71.6%)	42件 (28.4%)	
	50歳代以上	100件 (84.7%)	18件 (15.3%)	
採用団体別	H27年度以前	静岡市消防局	310件 (81.2%)	72件 (18.8%)
		2市2町の消防本部	112件 (74.2%)	39件 (25.8%)
	H28年度以降の静岡市消防局		125件 (91.9%)	11件 (8.1%)



Q6-2へ

Q6-2 (Q6-1で「そのような検証及び見直しをする職場だと思わない。」と答えた) その理由を教えてください。【自由記載】

(主な回答の類型とその件数)

現場の意見が反映されていないなど、本質的な対策が講じられていない。	24件
自所属以外で発生した事案に対し、職員が無関心であったり他人事のようにだったりする。	21件
検証をしているかもしれないが、現場に変化が伝わらない。	14件
現在の規程や資機材等が現場の実情に即していない	10件
日常の活動及び訓練における安全管理について振返りが行われていない	8件
検証に時間を要している。	8件

(主な回答の内容)

○現場の意見が反映されていないなど、本質的な対策が講じられていない。

- ・事故があっても、事故原因とは結び付かない対策をしている。
- ・消防局の一部の人間で話し合ったことを通知して、新しい指針のようなものを示して対応が完了したと思っている。

○自所属以外で発生した事案に対し職員が無関心であったり他人事のようにだったりする。

- ・各署から送られてくるヒヤリハットや警防リスクアラートは、ローカルメールや回覧によって、職員へは周知されているが、内容をミーティング等で、話し合いはされたことはない。
 - ・他都市で起きた事故についての情報があまりなく、報道だけでは詳細がわからない。
- 検証をしているかもしれないが、現場に変化が伝わらない。
- ・消防職員委員会等で意見が提出されても、現状のままでよいという結論が多い。
 - ・検証、見直しをしているように見せているだけで、結局は何も変わっていない。
- 現在の規程や資機材等が現場の実情に則していない
- ・警防活動基準が今の現場や災害戦術に即していない。
 - ・警防活動基準等について、誰が検証したのか、本当に安全なのかが示されていない。
- 日常の活動及び訓練における安全管理について振返りが行われていない。
- ・訓練や実災害での反省や良かった点のフィードバックが行われない。
 - ・警防活動の見直しはできていると思うが、安全管理に重点を置いて検証や見直しをした経験がほとんどない。
- 検証に時間を要している。
- ・末端まで検証結果くるまでに時間がかかっていたり、来なかったりがある。
- その他
- ・多くの事例を知る機会は増えているが、詳細を入手できず、そのため、細かいこと検証もできず伝達できないので、対策や防止策が具体的な話しのもとに対応できていない。

Q7 あなたは「葵消防署管内建物火災事故調査報告書」を読みましたか。

		一通り読んだ。	部分的に読んだ。	読んでいない。	
全体		484件 (72.3%)	161件 (24.1%)	24件 (3.6%)	
階級別	消防士	67件 (54.9%)	44件 (36.1%)	11件 (9.0%)	
	消防士長	154件 (68.1%)	67件 (29.6%)	5件 (2.2%)	
	消防司令補	143件 (78.1%)	34件 (18.6%)	6件 (3.3%)	
	消防司令	106件 (87.6%)	13件 (10.7%)	2件 (1.7%)	
	消防司令長	14件 (82.4%)	3件 (17.6%)	0件 (0.0%)	
年代別	20歳代以下	112件 (60.9%)	59件 (32.1%)	13件 (7.1%)	
	30歳代	163件 (74.4%)	52件 (23.7%)	4件 (1.8%)	
	40歳代	120件 (81.1%)	26件 (17.6%)	2件 (1.4%)	
	50歳代以上	89件 (75.4%)	24件 (20.3%)	5件 (4.2%)	
採用 団体別	H27年度 以前	静岡市 消防局	301件 (78.8%)	74件 (19.4%)	7件 (1.8%)
		2市2町の 消防本部	103件 (68.2%)	42件 (27.8%)	6件 (4.0%)
	H28年度以降の 静岡市消防局		80件 (58.8%)	45件 (33.1%)	11件 (8.1%)

Q8 あなたは、警防活動及び警防業務の安全管理を適切に行い、かつ、職員の安全管理に関する意識を向上させるためには、組織（警防活動における「隊」を含みます。）の中でどの職位の職員が、どのような役割を担うべきだと思いますか。（複数あれば複数上げてください。）【自由記載】

（主な回答の類型とその件数）

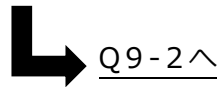
各隊の隊長が自隊の安全管理や業務、活動内容の把握を行うべきとするもの	88 件
司令補以上の職員が研修や訓練の企画を行うべきとするもの	75 件
職位を問わず、全職員が安全管理に対する意識を向上させるべきとするもの	55 件
隊長級の職員が意見や情報の集約とフィードバックを行うべきとするもの	18 件

（主な回答の内容）

- 各隊の隊長が自隊の安全管理や業務、活動内容の把握を行うべきとするもの
 - ・小隊長が各隊員の技術や当日の隊長等を考慮し、出動時に適切な役割分担を行うべき。
 - ・小隊長が訓練や活動時の危険箇所を周知し、各隊員にリスクを認識させるべき。
 - ・各隊長（中隊長・大隊長含む）は、自隊の活動を把握したうえで安全管理を担うべき。
- 司令補以上の職員が研修や訓練の企画を行うべきとするもの
 - ・司令または司令補の職員が、隊員となる職員の安全に対する認識を擦り合わせるよう教育すべき。
 - ・大隊長が本部や各署との合同訓練や情報交換、戦術のシミュレーションを繰り返し行うべき。
 - ・警備担当課長が安全管理に関する教育を行い、安全管理の方向性を明確にするべき。
- 職位を問わず、全職員が安全管理に対する意識を向上させるべきとするもの
 - ・隊員となる職位の職員が他都市の事例や訓練中に危険と感じたことについて周知するべき。
 - ・全職員が安全管理を実施し、危険を発見した場合は、上の職位の職員に対しても臆さず進言するべき。
- 隊長級の職員が意見や情報の集約とフィードバックを行うべきとするもの
 - ・小隊長が各職員の意見を集約し、活動方針を明確にするべき。
 - ・隊長となる職位の職員が火災性状や戦術に関する知識を習得し、適切にフィードバックするべき。
 - ・幹部（管理職）に位置する職員が現場職員の意見を吸上げ、基準やマニュアルに反映させるべき。
- その他
 - ・各当直の責任者が、出動後に活動の検証やフィードバックを行うべき。
 - ・隊長となる職位の職員が業務及びその基準を理解し、明確な指示を出すべき。

Q9-1 あなたは、警防活動及び警防業務の安全管理を適切に行い、かつ、職員の安全管理に関する意識を向上させるために、組織や業務に関し提案したいことはありますか。

		提案したいことがある。	提案したいことはない。	
全体		193件 (28.8%)	476件 (71.2%)	
階級別	消防士	8件 (6.6%)	114件 (93.4%)	
	消防士長	54件 (23.9%)	172件 (76.1%)	
	消防司令補	53件 (29.0%)	130件 (71.0%)	
	消防司令	72件 (59.5%)	49件 (40.5%)	
	消防司令長	6件 (35.3%)	11件 (64.7%)	
年代別	20歳代以下	21件 (11.4%)	163件 (88.6%)	
	30歳代	68件 (31.1%)	151件 (68.9%)	
	40歳代	66件 (44.6%)	82件 (55.4%)	
	50歳代以上	38件 (32.2%)	80件 (67.8%)	
採用団体別	H27年度以前	静岡市消防局	130件 (34.0%)	252件 (66.0%)
		2市2町の消防本部	49件 (32.5%)	102件 (67.5%)
	H28年度以降の静岡市消防局		14件 (10.3%)	122件 (89.7%)



Q9-2へ

Q9-2 (Q9-1.のあなたが「組織や業務に関し提案したいこと」について) それはどのようなことで、なぜ、そのような提案が必要だと思いますか。【自由記載】

(主な回答の類型とその件数)

研修又は人材育成に関すること	28件
訓練等に時間を割くための業務の見直し又は削減	24件
人事・給与に関すること	22件
訓練内容の見直し	18件
資機材に関すること(追加配備・適正な使用など)	15件
現場の意見又は柔軟性の尊重	14件
出動体制の見直し	12件
組織風土の改善	7件
活動方法の統一の徹底	6件
既存組織の機能強化又は検証	6件
現場の安全管理体制の強化	3件

(主な回答の内容)

- 研修又は人材育成に関すること
 - ・外部講師を招いての研修の実施。
 - ・外部で得た知識と局の方針とのすり合わせ。
- 訓練等に時間を割くための業務の見直し又は削減
- 人事・給与に関すること
 - ・消防職員の増員
 - ・昇任試験制度の見直し
 - ・適正な人員配置（地域に根強い職員の配置、事務職員の配置、再任用職員の適正な配置）
- 訓練内容の見直し
 - ・効果確認訓練の見直し
 - ・負傷等のリスクを排除した上での、本番を想定した（想定外の状況が発生させる）訓練の実施
- 資機材に関すること（追加配備・適正な使用など）
 - ・指揮隊タブレットの有効活用（職員にGPSを付け、位置情報を反映するなど）
 - ・危険の伴う屋内進入へのロボット等の活用
 - ・訓練中の落下事故後、D環（墜落静止用器具）の使用が規制されているが、それに伴い安全面や活動面で支障が出ているため、適正な使用方法の検討を求める。
 - ・呉服町火災の後、屋内進入時は投光器のコードを確保ロープとする警防活動基準が定められたが、当該コードは耐熱性が低いため50m耐熱ロープを導入されたい。
 - ・デジタル無線移行後、何年も無線通信の状況が悪いにも関わらず改善されない。
- 現場の意見又は柔軟性の尊重
 - ・現在、現場から離れた階級の職員が現場の声を聴かずにルール作りをしているので、現場の思いとは乖離している。現場の声を反映すべき。
 - ・安全管理マニュアルを、消防士から司令長までの各階級から数名ずつ選抜したチームで作成する。
 - ・安全管理を優先させすぎて、日々の訓練に支障をきたしているため、安全管理を自隊で完結させるようにする。
- 出動体制の見直し
 - ・出動する隊員の増員（本来隊長は俯瞰的な視点で状況判断や安全管理をしなければならないが、現在は、隊長も作業に加わらざるを得ない。）
 - ・各消防署に指揮隊の配備（日本平消防署及び牧之原消防署に配備されていない。）
 - ・3交代制の導入及び警防隊4人体制の確保。
 - ・災害現場での伝令員の 신설（無線運用が混線した場合に情報共有を円滑に行うため。）
- 組織風土の改善
 - ・CRMの本格導入など、現場の安全管理に関する意見は上下関係を無くしてお互い言い合うことを周知。
 - ・事故、失敗をした人間を叱責したり恥ずかしめたりしない組織風土の醸成。
 - ・パワハラはいけないことだが、消防という危険を伴う業務を行う上で、ある程度の厳しい教育及び上下関係は必要
- 活動方法の統一の徹底
 - ・警防活動基準に明記されていない部分で、各隊に解釈に差があるため、屋内進入、ホース延長で連携が取りづらい。もしくはグレーな部分は各隊に任せてもよいというはっきりした回答がほしい。
 - ・災害現場において、自隊のみが把握していても連携活動（中隊）はうまくいかないことから、他の救助隊及び消防隊にも屋内進入時における活動の統一を図る。

○既存組織の機能強化又は検証

- ・吉田町の事故後に創設された災害機動支援隊について、葵区呉服町の事故に関する検証を行うべき。
- ・警防課と安全対策課の統一（業務の投げ合いばかりで現場に混乱が生じている。）。
- ・職員安全指導係をもっと有効活用すべき。

○現場の安全管理体制の強化

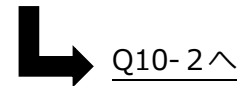
- ・屋内進入隊員の管理をする際、現在の進入隊員数や退出時間等を整理できるよう、「進入隊員管理表」を作成し、現場本部にて活用する。
- ・科学的な火災性状を理解し、最新の火災対応が可能にするための特別チームの編成

○その他

- ・災害対応能力及び安全管理体制を強化するための訓練施設の増設（防災総合訓練場（放水訓練施設やホットトレーニング施設など）、模擬家屋型の訓練施設）
- ・広域解散。組織が大きすぎて末端まで目が届かない。職員同士の関係が薄い。
- ・管理職こそ当事者意識を持ってもらいたい。
- ・先輩職員への尊重もさることながら、消防歴や階級が高い職員がすべて正しいことを言っているわけではない。対等な話し合いの場が持たれるべき。

Q10-1 現在、警防活動の現場において、警防活動に関する規程等の遵守が意識されていると思いますか。

		規程等の遵守が意識されていると思う。	規程等の遵守が意識されていない。	
全体		601件 (89.8%)	68件 (10.2%)	
階級別	消防士	116件 (95.1%)	6件 (4.9%)	
	消防士長	204件 (90.3%)	22件 (9.7%)	
	消防司令補	159件 (86.9%)	24件 (13.1%)	
	消防司令	106件 (87.6%)	15件 (12.4%)	
	消防司令長	16件 (94.1%)	1件 (5.9%)	
年代別	20歳代以下	176件 (95.7%)	8件 (4.3%)	
	30歳代	187件 (85.4%)	32件 (14.6%)	
	40歳代	130件 (87.8%)	18件 (12.2%)	
	50歳代以上	108件 (91.5%)	10件 (8.5%)	
採用団体別	H27年度以前	静岡市消防局	344件 (90.1%)	38件 (9.9%)
		2市2町の消防本部	129件 (85.4%)	22件 (14.6%)
	H28年度以降の静岡市消防局		128件 (94.1%)	8件 (5.9%)



Q10-2へ

Q10-2 なぜ、警防活動の現場において、警防活動に関する規程等の遵守が意識されていないと思いますか。【自由記載】

(主な回答の類型とその件数)

規程等が現場の実情に即していない又は更新されていない。	18件
人ごと規程等に対する認識や理解が異なる。	17件
隊ごとの方針や効率性が優先されている。	6件
署ごと規程等に対する認識が異なる。	5件

(主な回答の内容)

○規程等が現場の実情に即していない又は更新されていない。

- ・規程を遵守しようとして現場は必死だが、所管課がその場しのぎで決め事を投げてくるから、現場としてはたまったものではない。
- ・そもそも自分がその規程や基準に納得いかないところがあるためであり、部下には教えることが難しい。
- ・規則や規程を厳しくしすぎることで、逆に遵守意識が薄まる可能性もあると感じる。
- ・様々な戦術や理論など新しい情報が飛び交う中で個人や小隊のアップデートに組織単位では対応できていないように思う。

○人ごと規程等に対する認識や理解が異なる。

- ・殉職事案や事故事案を自分事と捉えておらず、改正された火災活動要領を訓練前に事前に読んでおくよう指導しても、ほとんどの職員が目を通していない。
- ・自己学習に頼っており、隊員がどの程度理解しているかもわからない。

○隊ごとの方針や効率性が優先されている。

- ・大隊長によって認識の違いがある。
- ・屋内進入時の設定について、各小隊のやり方や、小隊にとって活動のしやすいように解釈していると感じる。
- ・現場では、許容可能なリスクの場合効率を優先するため。

○署ごと規程等に対する認識が異なる。

- ・他管轄の災害に出た際、ギャップを感じることもある。
- ・広域化した市町が集まってできた組織の中で、個々がいろんな考え方を持っており、その考え方を換えようとしていないため。
- ・結局、各署の上役の色が出て、基準と別のことを行うから。

○その他

- ・規程を守ることと、安全であることは別物である。
- ・いざという場面でも、規程等との整合性を考えながら活動ができるような器用な隊員は少ないのではないか。
- ・事故等が発生した後も、実際に規程等が守られていない場面を目にすることがある。
- ・ホース等も特殊な延長方法など独自性が強い。

Q11-1 現在、警防活動における安全管理は、各署（各隊）間で統一されていると思いますか。

		各署（各隊）間で統一されていると思う。	各署（各隊）間で統一されていないと思う。	
全体		525件 (78.5%)	144件 (21.5%)	
階級別	消防士	108件 (88.5%)	14件 (11.5%)	
	消防士長	181件 (80.1%)	45件 (19.9%)	
	消防司令補	136件 (74.3%)	47件 (25.7%)	
	消防司令	86件 (71.1%)	35件 (28.9%)	
	消防司令長	14件 (82.4%)	3件 (17.6%)	
年代別	20歳代以下	159件 (86.4%)	25件 (13.6%)	
	30歳代	168件 (76.7%)	51件 (23.3%)	
	40歳代	104件 (70.3%)	44件 (29.7%)	
	50歳代以上	94件 (79.7%)	24件 (20.3%)	
採用団体別	H27年度以前	静岡市消防局	298件 (78.0%)	84件 (22.0%)
		2市2町の消防本部	110件 (72.8%)	41件 (27.2%)
	H28年度以降の静岡市消防局		117件 (86.0%)	19件 (14.0%)



Q11-2, 11-3へ

Q11-2 どのような場面において、各署（各隊）間で警防活動における安全管理が統一されていないと思われましたか。【自由記載】

（主な回答の種類とその件数）

屋内への進入方法、進入管理（現場活動）が異なる場面	18件
隊長によって指示内容や理解が異なる場面	16件
装備内容や資機材の使用方法等が異なる場面	15件
隊員間の意識やレベルが異なる場面	12件
規程等の解釈や運用方法が異なる場面	9件
訓練内容が異なる場面	8件
他署の活動はわからない	4件

（主な回答の内容）

○屋内への進入方法、進入管理（現場活動）が異なる場面

- ・各署で屋内進入要領が違う。
- ・屋内進入時の合図の確認方法が、署所間で違ったりする部分があった。
- ・統一されているのは警防規程等の書面であり、実際の現場や訓練では統一されているとは思えない。

○隊長によって指示内容や理解が異なる場面

- ・各隊長によって考え方が異なる。
- ・知識、技術のある上司もいれば、現場経験の浅い上司もいるため、なかなか反映や統一されない。

- ・ 隊ごとの指導や意識の差がそのまま安全管理の差になっている。
- 装備内容や資機材の使用方法等が異なる場面
 - ・ 使用資機材が隊や署によって異なる。
 - ・ 部隊により酸素ポンベの容量がバラバラであり、更には、同じ部隊でも酸素ポンベの容量が異なる。
- 隊員間の意識やレベルが異なる場面
 - ・ 安全の尺度が隊員によって異なるので、詳細まで統一することは難しい。
- 規程等の解釈や運用方法が異なる場面
 - ・ 各職員で警防活動基準の解釈に違いがあり、活動内容にも違いが出ている。
- 訓練内容が異なる場面
 - ・ 効果確認訓練などの内容に幅がありすぎて戸惑う場合がある。
- 他署の活動はわからない
- その他（分類不能）
 - ・ 事故後に統一が図られ徹底が図られている最中である。

Q11-3 どのようにしたら、各署（各隊）間で警防活動における安全管理が統一されると思いますか。
【自由記載】

（主な回答の類型とその件数）

訓練・研修の実施	25 件
規程等の作成又は見直し	18 件
隊長等の能力醸成等	10 件
職員の意識・能力の向上	10 件
統一は難しい（すべきではない）	10 件
本部による統制	7 件
資機材・装備品の整備	4 件
その他（分類不能）	22 件

（主な回答の内容）

- 訓練・研修の実施
 - ・ 実戦的な訓練を反復して行い、合同ミーティング（意見交換）を訓練の度に行う。
 - ・ 他署隊と合同訓練をして、安全管理のすり合わせを行う。
 - ・ 現在も行われている各署（各隊）が参加する集合研修等（指揮隊研修や小隊長研修）を継続的に実施する。
- 規程等の作成又は見直し
 - ・ 最低でも各署では、活動内容を統一させるべき。自隊だけでの訓練はもちろんのこと、他隊との合同訓練も実施し、共有を図ることで統一された活動に繋がると思う。
 - ・ どういった場所が統一されていないか各署間で取りまとめ、その内容において、本部（警防課・安全対策課）で検討し、決定事項を各署に伝える。
 - ・ 特に取り決めがなく各署で方法が異なる部分を改めて洗い出して検証し、統一することが必要
- 職員の意識・能力の向上
 - ・ 明確な基準を作って、署長、副署長、大隊長、小隊長など階級別に統一の理解となるような周知が必要。そのうえで、統一されているか定期的に確認することが必要だと思う。安全管理を統一するために配置された職員が責任を自覚して、主体的に取り組むべき。

- ・当事者意識

○統一は難しい（すべきではない）

- ・活動要領の解釈が人それぞれ、現場の状況に応じてが大原則になっているため、難しい。

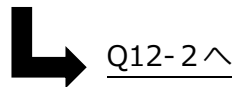
○本部による統制

- ・各署任せにしないで、本部からトップダウンで統一事項を決めるべき

- ・どのような災害も隊ごと、隊長ごと基本となる活動内容が異なるため基本活動を統一することで安全管理も統一される。

Q12-1 これまでに警防活動の現場において、上司から訓練をしたことのない方法による警防活動を指示されたことはありますか。

		上司から訓練をしたことのない方法による活動を指示されたことがある。	上司から訓練をしたことのない方法による活動を指示されたことはない。	
全体		163件 (24.4%)	506件 (75.6%)	
階級別	消防士	27件 (22.1%)	95件 (77.9%)	
	消防士長	60件 (26.5%)	166件 (73.5%)	
	消防司令補	52件 (28.4%)	131件 (71.6%)	
	消防司令	21件 (17.4%)	100件 (82.6%)	
	消防司令長	3件 (17.6%)	14件 (82.4%)	
年代別	20歳代以下	43件 (23.4%)	141件 (76.6%)	
	30歳代	61件 (27.9%)	158件 (72.1%)	
	40歳代	39件 (26.4%)	109件 (73.6%)	
	50歳代以上	20件 (16.9%)	98件 (83.1%)	
採用団体別	H27年度以前	静岡市消防局	96件 (25.1%)	286件 (74.9%)
		2市2町の消防本部	38件 (25.2%)	113件 (74.8%)
	H28年度以降の静岡市消防局		29件 (21.3%)	107件 (78.7%)



Q12-2 上司から訓練をしたことのない方法による活動を指示された際、あなたはどのように対応しましたか。

訓練したことがないため拒否をした。	12件
上司からの指示であるため、その方法による活動を実施した。	127件
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・不安に思う部分なかったため、同意した。 ・上司からの指示による方法の意図を理解した後に活動を実施した。(理解できない場合については拒否をしている。) ・同じ現場は二度としてないので訓練の応用として自分自身で考える。 ・先輩上司から不明な活動方法を確認しながら対応した。 ・隊長と意見を交換し、自分のできる範囲の指示に変更してもらった。 ・訓練をしたことがない内容ではあったが、危険要因や資機材等の限界を全隊員が共通認識を持っていたため、問題なく活動できた。 ・人を助けるためには、その方法しかなかった。 など	24件

Q13-1 現在、警防活動の現場において、安全が確保されていない場合に、隊員相互に躊躇なく指摘・助言し合える環境だと思いますか。

		隊員相互に躊躇なく指摘・助言し合える環境だと思う。	隊員相互に躊躇なく指摘・助言し合える環境だと思わない。	
全体		566件 (84.6%)	103件 (15.4%)	
階級別	消防士	111件 (91.0%)	11件 (9.0%)	
	消防士長	192件 (85.0%)	34件 (15.0%)	
	消防司令補	150件 (82.0%)	33件 (18.0%)	
	消防司令	98件 (81.0%)	23件 (19.0%)	
	消防司令長	15件 (88.2%)	2件 (11.8%)	
年代別	20歳代以下	165件 (89.7%)	19件 (10.3%)	
	30歳代	183件 (83.6%)	36件 (16.4%)	
	40歳代	119件 (80.4%)	29件 (19.6%)	
	50歳代以上	99件 (83.9%)	19件 (16.1%)	
採用団体別	H27年度以前	静岡市消防局	326件 (85.3%)	56件 (14.7%)
		2市2町の消防本部	117件 (77.5%)	34件 (22.5%)
	H28年度以降の静岡市消防局		123件 (90.4%)	13件 (9.6%)



[Q13-2へ](#)

Q13-2 (Q13-1で「隊員相互に躊躇なく指摘・助言し合える環境だと思わない。」と答えた) その理由を教えてください。また、隊員相互に躊躇なく指摘・助言し合うためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(主な回答の類型とその件数)

階級や年代の違いによるもの	51件
職員間のコミュニケーション不足	19件

(主な回答の内容)

○階級や年代の違いによるもの

- ・階級が低い職員や現場経験が少ない職員は、なかなか意見が言いにくいし、意見が通りにくい。階級が上の職員の意見や現場経験が豊富な職員の意見は通りやすい。
- ・高圧的な態度をとる上司がいて発言しても受け入れてもらえない。
- ・消防は階級社会であり上下関係もあるため、当然下から上のものに躊躇なく指摘や助言をするのは難しい。

- ・若い職員は特に、現場で上司や先輩に対しては中々言えないのが現実。単純に言いづらいことに加え、経験や知識、技術の差を感じると、それが本当にいいのか、正しいのか、不安で言えない職員も多い。
- ・隊員間でも、先輩、後輩の関係があり、先輩が行っていることに対し後輩は指摘や助言はしづらい。
- ・先輩職員が助言をし、お手本を見せてくれているが、後輩職員がその助言を素直に受け止めて自分の技術にしてくれない。

○職員間のコミュニケーション不足

- ・広域化したことで、人間関係が希薄になったと感じており、多数の職員と関わる中で相手の方を知らないがゆえに年齢、階級が弊害でうまく伝わらないことがあると感じる。
- ・現場活動においては、隊員相互に指摘・助言をするいとまがないのが現状である。
- ・合同訓練が少ない。

Q14-1 あなたが過去に従事した警防活動の現場で、現場全体の統率が取れていない、または、部隊内の統率や部隊間の連携が取れていないと思ったことはありますか。

		現場全体の統率が取れていない、または、部隊内の統率や部隊間の連携が取れていないと思ったことがある。	現場全体の統率が取れていない、または、部隊内の統率や部隊間の連携が取れていないと思ったことはない。	
全体		307件 (45.9%)	362件 (54.1%)	
階級別	消防士	30件 (24.6%)	92件 (75.4%)	
	消防士長	116件 (51.3%)	110件 (48.7%)	
	消防司令補	86件 (47.0%)	97件 (53.0%)	
	消防司令	68件 (56.2%)	53件 (43.8%)	
	消防司令長	7件 (41.2%)	10件 (58.8%)	
年代別	20歳代以下	61件 (33.2%)	123件 (66.8%)	
	30歳代	116件 (53.0%)	103件 (47.0%)	
	40歳代	85件 (57.4%)	63件 (42.6%)	
	50歳代以上	45件 (38.1%)	73件 (61.9%)	
採用団体別	H27年度以前	静岡市消防局	181件 (47.4%)	201件 (52.6%)
		2市2町の消防本部	85件 (56.3%)	66件 (43.7%)
	H28年度以降の静岡市消防局	41件 (30.1%)	95件 (69.9%)	

↓ Q14-2へ

Q14-2 (Q14-1.で統率や連携が取れていないと思ったことについて)それはどのような場面で、なぜ、統率や連携が取れていないと思いましたか。【自由記載】

(主な回答の種類とその件数)

火災現場において隊長等の指示が不足していたため	47件
火災現場において隊員間(各隊間)の情報共有が不足していたため	45件
火災現場において複数の職員からの指示(指揮命令系統外)があったため	41件
火災現場において無線が混線していたため	28件
火災現場において指揮隊が十分機能がしていなかったため	21件
(日頃からの)合同訓練が不足しているため	7件

(主な回答の内容)

○火災現場において隊長等の指示が不足していたため

- ・小隊において隊長からの指示がなく、隊員間で確認しあいながら活動することが多々ある。

○火災現場において隊員間(各隊間)の情報共有が不足していたため

- ・各隊の連携がなく、現場活動において部隊がそれぞれの判断において活動しており、効率的な現場

活動が行われていない。

- ・火災現場で各隊の活動内容が隊員間で周知できておらず、屋内進入している隊がある中、放水が続けられていた。
- ・各隊が活動内容を報告しないことによって、火災防御活動の進行状況が把握できず、活動が後手に回ってしまった。
- ・現場活動中に職員が行方不明になっていることがまったく知らされていないことがあった。

○火災現場において複数の職員からの指示（指揮命令系統外）があったため

- ・舵取りが複数居たため、火災現場において隊によってやっていることがバラバラだと感じるがあった。
- ・本来は現場本部から指揮隊が指示を出すのに、係長級以上の職員が各隊に個別で指示していたため、各隊が困惑してしまった。
- ・現場での活動が統一されておらず、指揮隊、各小隊長などから様々な指示が出され、何に従えばいいのか分からないことがあった。

○火災現場において無線が混線していたため

- ・無線が混線してしまい大隊長からの命令を傍受できずに各隊が何をすればいいかわからなくなっている瞬間があった。
- ・無線を独占され、至急伝達したいこともできない状況が多々ある。

○火災現場において指揮隊が十分機能がしていなかったため

- ・複数隊が出動している事案で、指揮隊が各隊の活動を把握できていなくて指示等が効果的に出ていなかった。
- ・第2 指揮体制の火災現場において、指揮隊の的確な指揮活動が取れていなかった。

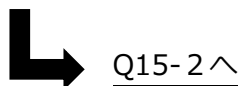
○（日頃からの）合同訓練が不足しているため

○その他

- ・各隊が思い思いに活動し、やっていることがバラバラだと思った。
- ・指揮する側も動く隊員の中も、区画火災を含め警防技術に関する知識や技術が圧倒的に不足している。
- ・各小隊長が、現場最高指揮者の指示に頼りすぎている。自ら考え行動していない。小隊長間のコミュニケーション不足。

Q15-1 警防活動の現場において、各隊や隊員からの火災情報が適切に現場本部に集約されていないと思ったことはありますか。

		各隊や隊員からの火災情報が適切に現場本部に集約されていないと思ったことがある。	各隊や隊員からの火災情報が適切に現場本部に集約されていないと思ったことはない。	
全体		187件 (28.0%)	482件 (72.0%)	
階級別	消防士	11件 (9.0%)	111件 (91.0%)	
	消防士長	59件 (26.1%)	167件 (73.9%)	
	消防司令補	62件 (33.9%)	121件 (66.1%)	
	消防司令	50件 (41.3%)	71件 (58.7%)	
	消防司令長	5件 (29.4%)	12件 (70.6%)	
年代別	20歳代以下	29件 (15.8%)	155件 (84.2%)	
	30歳代	67件 (30.6%)	152件 (69.4%)	
	40歳代	57件 (38.5%)	91件 (61.5%)	
	50歳代以上	34件 (28.8%)	84件 (71.2%)	
採用団体別	H27年度以前	静岡市消防局	121件 (31.7%)	261件 (68.3%)
		2市2町の消防本部	46件 (30.5%)	105件 (69.5%)
	H28年度以降の静岡市消防局		20件 (14.7%)	116件 (85.3%)



Q15-2へ

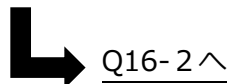
Q15-2 (Q15-1.で火災情報が適切に現場本部に集約されていないと思ったことについて) それほどのような場面で、なぜ、火災情報が現場本部に集約されていないと思われましたか。【自由記載】

(主な回答の内容)

- ・現場本部に要救助者情報や居住者の情報が集約されるまでに時間がかかったり、集約された重要な情報が隊員に行きわたるまでに時間がかかりすぎたり、行かなかったことがあるため。
- ・各隊が現場で得ることができた情報が情報収集後速やかに報告されておらず、活動が落ち着いてから報告されたため。重要な情報であったため即時報告をもらっていただければ違った活動内容になっていた。
- ・広域化地域の現場の多くでは、常時、指揮隊の乗車人数が少なく、情報を集約するだけの人員余裕がないため。また、活動隊員数も少なく、情報管理するだけの余裕がない。指揮隊が2名では、情報を集めにいく隊員すら配置できない。
- ・火災現場における活動危険（危険物等）を認めても無線が通じなかった場面があったため。
- ・各隊の屋内進入の状況を大隊長が把握できていなかったため。
- ・すべての情報が遅滞なく集まるほど、また、常に現場をコントロールできるほど災害現場は簡単ではないため。
- ・各隊の情報が指揮隊で対応しきれず、必要な情報を送ろうとしても、人員不足により対応できていない。

Q16-1 警防活動の現場において、現場本部（あなたが指示を受けるべき隊員を含む。）以外からの指示によって活動を行ったことがありますか。

		現場本部以外からの指示によって活動を行ったことがある。	現場本部以外からの指示によって活動を行ったことはない。	
全体		185 件 (27.7%)	484 件 (72.3%)	
階級別	消防士	20 件 (16.4%)	102 件 (83.6%)	
	消防士長	60 件 (26.5%)	166 件 (73.5%)	
	消防司令補	63 件 (34.4%)	120 件 (65.6%)	
	消防司令	39 件 (32.2%)	82 件 (67.8%)	
	消防司令長	3 件 (17.6%)	14 件 (82.4%)	
年代別	20 歳代以下	32 件 (17.4%)	152 件 (82.6%)	
	30 歳代	69 件 (31.5%)	150 件 (68.5%)	
	40 歳代	57 件 (38.5%)	91 件 (61.5%)	
	50 歳代以上	27 件 (22.9%)	91 件 (77.1%)	
採用 団体別	H27 年度 以前	静岡市 消防局	110 件 (28.8%)	272 件 (71.2%)
		2 市 2 町の 消防本部	51 件 (33.8%)	100 件 (66.2%)
	H28 年度以降の 静岡市消防局		24 件 (17.6%)	112 件 (82.4%)



Q16-2 へ

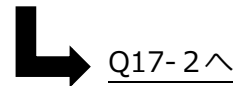
Q16-2（現場本部以外からの指示によって活動を行ったことがある場合）その時には誰からの指示により活動を行いましたか。【自由記載】

（主な回答の種類とその件数）

他隊の隊長	50 件
災害機動支援隊（安全対策課）	13 件
指揮権のない管理職	6 件
他隊の隊員	5 件
安全管理支援隊	3 件
指揮隊	3 件
現場に来た日勤者	2 件
自己判断	2 件
他隊の上司	2 件
自隊の隊員	2 件
警察	2 件

Q17-1 あなたは、警防活動に関する各種規程について、職員が正しく理解し、警防活動が適切に行えるよう十分に教育や訓練がされていると思いますか。

		十分に教育等がされている と思う。	十分に教育等がされてい ないと思う。	
全体		418件 (62.5%)	251件 (37.5%)	
階級別	消防士	100件 (82.0%)	22件 (18.0%)	
	消防士長	143件 (63.3%)	83件 (36.7%)	
	消防司令補	109件 (59.6%)	74件 (40.4%)	
	消防司令	56件 (46.3%)	65件 (53.7%)	
	消防司令長	10件 (58.8%)	7件 (41.2%)	
年代別	20歳代以下	147件 (79.9%)	37件 (20.1%)	
	30歳代	123件 (56.2%)	96件 (43.8%)	
	40歳代	74件 (50.0%)	74件 (50.0%)	
	50歳代以上	74件 (62.7%)	44件 (37.3%)	
採用 団体別	H27年度 以前	静岡市 消防局	221件 (57.9%)	161件 (42.1%)
		2市2町の 消防本部	92件 (60.9%)	59件 (39.1%)
	H28年度以降の 静岡市消防局		105件 (77.2%)	31件 (22.8%)



Q17-2へ

Q17-2 (Q17-1で「十分に教育等がされていないと思う。」と答えた) その理由を教えてください。また、今後、十分に教育等がされるためにはどのような取組みが必要だと思えますか。【自由記載】

(主な回答の類型とその件数)

訓練・教育に掛ける時間・回数が足りない。	65件
規程等が警防活動や訓練に落とし込まれていない又は適合していない。	33件
知識の習得が個人任せになっている。	25件
規程等の量が多すぎる。	13件
指導者により指導方法又は指導内容に差がある。	8件

(主な回答の内容)

○訓練・教育に掛ける時間・回数が足りない

- ・他の業務が多忙で職務中に基準等を読み込めていない、量が多く印刷もしないようになっている、自宅で読み込むのも難しい。
- ・効果確認訓練を実施するので精いっぱい、想定訓練や現場に即した訓練が少しも出来ない。
- ・見せる訓練ばかりで、活動基準に則った訓練が全くされていない。

○規程等が警防活動や訓練に落とし込まれていない又は適合していない。

- ・要領の内容に明らかに適切でない点が複数見受けられる。
- ・各市町での戦術があることから、必ずしも規程に記載されていることが当てはまらない
- ・「これは訓練だからこうするけど現場は違うよ」といった言葉をよく聞く。特に若手職員は何が正解かわからないと思う。

○知識の習得が個人任せになっている。

- ・今年改正された火災活動要領について、重要な改正内容であるにもかかわらず署内で教養等がない。
- ・警防活動基準や規程集を配布して終わり、メールや回覧板で流して終わりにしている。

○規程等の量が多すぎる。

- ・あの量を現場で瞬時に正しく判断できない。
- ・様々な災害における活動基準などのマニュアルの量が膨大で、全てを暗記するには並大抵のものではない

○指導者により指導方法又は指導内容に差がある。

- ・訓練ごとに指導者の考え方等により教わる内容が異なる。
- ・隊長によっては内容を理解していない。

○その他

- ・現在の教育形態は完成形ではなく、まだ、進行形である。
- ・規程を読み、覚え、訓練を実施するが、どうしてそのようなことをしなければいけないのか、考えないで言われたことをやっている。
- ・局内に安全管理アドバイザー（仮）のような資格制度の整備が必要。

Q18-1 あなたは、各種資機材の取扱いについて、職員が正しく理解し、警防活動が適切に行えるよう十分に教育や訓練がされていると思いますか。

		十分に教育等がされている と思う。	十分に教育等がされてい ないと思う。	
全体		468件 (70.0%)	201件 (30.0%)	
階級別	消防士	106件 (86.9%)	16件 (13.1%)	
	消防士長	163件 (72.1%)	63件 (27.9%)	
	消防司令補	116件 (63.4%)	67件 (36.6%)	
	消防司令	70件 (57.9%)	51件 (42.1%)	
	消防司令長	13件 (76.5%)	4件 (23.5%)	
年代別	20歳代以下	154件 (83.7%)	30件 (16.3%)	
	30歳代	146件 (66.7%)	73件 (33.3%)	
	40歳代	85件 (57.4%)	63件 (42.6%)	
	50歳代以上	83件 (70.3%)	35件 (29.7%)	
採用 団体別	H27年度 以前	静岡市 消防局	251件 (65.7%)	131件 (34.3%)
		2市2町の 消防本部	102件 (67.5%)	49件 (32.5%)
	H28年度以降の 静岡市消防局		115件 (84.6%)	21件 (15.4%)

↓ Q18-2へ

Q18-2 (Q18-1で「十分に教育等がされていないと思う。」と答えた) その理由を教えてください。
また、今後、十分に教育等がされるためにはどのような取組みが必要だと思いますか。【自由記
載】

(主な回答の類型とその件数)

訓練・教育に掛ける時間・回数が不足している。	42件
資機材に触れる又は使用する機会が少ない。	14件
理解度に個人差がある。	12件
使用されている状況等から教育が不十分と感じている。	11件
配備された資機材が統一されていない。	9件
資機材の使用方法について共通認識が持たれていない。	7件
資機材の使用に関する基準が現場の実情に即していない。	6件
局内での指導に限界がある、	6件
効果的な訓練が行われていない。	5件
その他(「他の設問で回答した内容と同じ」とするものを含む。)	47件

(主な回答の内容)

- 訓練・教育に掛ける時間・回数が不足している。
- 資機材に触れる又は使用する機会が少ない。
 - ・昔は現場で覚える事が多かったが、出動件数が少なくなったことで経験値が下がった。
 - ・実際に使用し訓練できる機会が少ない資機材がある（エンジンカッター、チェーンソーなど）
 - ・自隊の隊員には、毎当直、二次点検等で資機材の取扱いを実施させている。
- 理解度に個人差がある。
 - ・研修や訓練は行われているが、個人によってその理解度や習熟度に違いがある。
- 使用されている状況等から教育が不十分と感じている。
- 配備された資機材が統一されていない。
 - ・各署や車両によって資機材が違ったりするため異動のたびに教育訓練が必要。
- 資機材の使用方法について共通認識が持たれていない。
 - ・資機材の取扱方法又は指導方法が、所属、上司、先輩により異なる。
 - ・消防学校で学んだ内容がそもそも違うことが多い。
- 資機材の使用に関する基準が現場の実情に即していない。
 - ・訓練中の落下事故により D 環を付けるのを禁止された。つける理由は、屋内検索に必要だからであって、呉服町で殉職事故が起きた。
 - ・合理的な手法であっても、新しい技術を取り入れようとすると、上層部が反対する。
- 局内での指導に限界がある。
 - ・業者から取扱説明を受けずに、取扱説明書を読み、自分たちの解釈で運用している。
- 効果的な訓練が行われていない。
- その他（「他の設問で回答した内容と同じ」とするものを含む。）
 - ・資機材には様々な使用方法や注意点があるが、使用はできても注意点を知らない。
 - ・資機材の取扱いについて、教育を行う雰囲気、風土が形成されていない。

Q19-1 あなたは、警防活動におけるリスクについて、職員が正しく理解し、警防活動が適切に行えるよう十分に教育や訓練がされていると思いますか。

		十分に教育等がされている と思う。	十分に教育等がされてい ないと思う。	
全体		506件 (75.6%)	163件 (24.4%)	
階級別	消防士	111件 (91.0%)	11件 (9.0%)	
	消防士長	183件 (81.0%)	43件 (19.0%)	
	消防司令補	134件 (73.2%)	49件 (26.8%)	
	消防司令	65件 (53.7%)	56件 (46.3%)	
	消防司令長	13件 (76.5%)	4件 (23.5%)	
年代別	20歳代以下	168件 (91.3%)	16件 (8.7%)	
	30歳代	165件 (75.3%)	54件 (24.7%)	
	40歳代	89件 (60.1%)	59件 (39.9%)	
	50歳代以上	84件 (71.2%)	34件 (28.8%)	
採用 団体別	H27年度 以前	静岡市 消防局	269件 (70.4%)	113件 (29.6%)
		2市2町の 消防本部	115件 (76.2%)	36件 (23.8%)
	H28年度以降の 静岡市消防局		122件 (89.7%)	14件 (10.3%)



Q19-2へ

Q19-2 (Q19-1で「十分に教育等がされていないと思う。」と答えた) その理由を教えてください。また、今後、十分に教育等がされるためにはどのような取組みが必要だと思えますか。【自由記載】

(主な意見の件数)

訓練・教育に掛ける時間・回数が不足している。	24件
現場経験又はそれに近い訓練経験が不足している。	18件
隊員間でリスク感覚が統一されていない。	8件
効果的な教育が行われていない。	8件
教育等が小隊長等に委ねられており差が生じている。	7件
実際に現場でリスクの高い活動が行われている。	6件
基準どおりに活動することに危険性を感じたり納得が得られていなかったりする。	4件

(主な回答の内容)

- 訓練・教育に掛ける時間・回数が不足している。
- 現場経験又はそれに近い訓練経験が不足している。
 - ・実災害に即した訓練施設がないため、リスクを視聴等でしか確認できない。
 - ・画像や本で見るものと現場で実物を目の当たりにしてみるものでは印象が違う。

- ・消防の現場は、危険な場所が殆どでその危険な場所でいかに安全に活動するかを検証するために、または安全度を高めるために訓練をしている。それなのに、「高所における訓練は実施するな」と言われてしまったら、自分たち現場の職員はどうして良いかわからない。
- 隊員間でリスク感覚が統一されていない。
- ・外部の研修やSNS等で技術を学ぶ職員が多くなり、リスクの感覚が隊員間で異なる。
 - ・ヒヤリハットやリスクアラート等が発出されるが、まだ他人事ととらえてしまっている職員が多い。
- 効果的な教育が行われていない。
- ・教育等の内容がうわべだけ、その場しのぎで、全く職員に伝わっていない
 - ・警防活動において事故が起こった場合、一番の事故の原因ではないことに時間や教育を費やすことがある。
 - ・旧消防本部でのやり方や考えに固執していて静岡市消防局のやり方を否定しているため教育しても、覚える気がない。
- 教育等が小隊長等に委ねられており差が生じている。
- ・各小隊長によって理解度が異なるため、各隊員に行き届いていない。
 - ・各小隊長の裁量に委ねられている部分が多く、差が生じるのは当たり前と感じる。
- 実際に現場でリスクの高い活動が行われている。
- 基準どおりに活動することに危険性を感じたり納得が得られていなかったりする。
- ・今の活動基準の内容を一字違わず守ることに重きがおかれているため、現場での工夫や応用の隙間すらなく、かといってその基準が現場活動に即していないことに対して基準を見直すといった制度が整っていないことから、危険を承知の上で基準に沿った活動をしなければならない。

Q20-1 あなたは、各種訓練の目的や方法について、職員が正しく理解ができるよう十分に教育がされていると思いますか。

		十分に教育がされていると思う。	十分に教育がされていないと思う。	
全体		533件 (79.7%)	136件 (20.3%)	
階級別	消防士	112件 (91.8%)	10件 (8.2%)	
	消防士長	182件 (80.5%)	44件 (19.5%)	
	消防司令補	142件 (77.6%)	41件 (22.4%)	
	消防司令	82件 (67.8%)	39件 (32.2%)	
	消防司令長	15件 (88.2%)	2件 (11.8%)	
年代別	20歳代以下	168件 (91.3%)	16件 (8.7%)	
	30歳代	168件 (76.7%)	51件 (23.3%)	
	40歳代	103件 (69.6%)	45件 (30.4%)	
	50歳代以上	94件 (79.7%)	24件 (20.3%)	
採用団体別	H27年度以前	静岡市消防局	287件 (75.1%)	95件 (24.9%)
		2市2町の消防本部	121件 (80.1%)	30件 (19.9%)
	H28年度以降の静岡市消防局		125件 (91.9%)	11件 (8.1%)

➡ [Q20-2へ](#)

Q20-2 (Q20-1で「十分に教育がされていないと思う。」と答えた) その理由を教えてください。また、今後、十分に教育がされるためにはどのような取組みが必要だと思いますか。【自由記載】

(主な回答の種類とその件数)

効果的な訓練が実施されていない。	19件
事前に訓練の目的や方法の説明がない又は説明が不足している。	11件
そもそも警防活動又は訓練に関する正しい実施方法や目的の理解が局内で浸透していない。	10件
指導者により指導内容や指導方法に差異がある。	8件
訓練に掛ける時間が不足している。	8件

(主な回答の内容)

- 効果的な訓練が実施されていない。
 - ・効果確認訓練をこなすことが目的となっている。
 - ・毎年似たような訓練を惰性で行っている。
 - ・正しい知識と技術が局に浸透していないので、合理性にかける訓練となっている。
- 事前に訓練の目的や方法の説明がない又は不足している。

- ・資機材や訓練方法を理解している前提で訓練を実施してしまう隊長が多い。
 - ・どういった目的でどんな訓練が行われるかわからないまま訓練が始まり、先輩職員に叱責される機会が多々あった。
- そもそも警防活動又は訓練に関する正しい実施方法や目的の理解が局内で浸透していない。
- ・そもそもの訓練の目的自体が実災害に即していない。
 - ・どのように隊が動いてほしいのかどのような行動をしてほしいのかがわからない場合が多く、訓練の想像ができない。
 - ・活動方法を統一することのだが、具体的な方法が知らされていない。
 - ・訓練の目的について、幹部と現場で活動する隊員と考えが違う。
 - ・合併した市町により経験の差ややり方の違いが多々あり統一できていない。
- 指導者により指導内容や指導方法に差異がある。
- ・指導者により指導方法が異なり、指導を受けたもののポイントが異なる。
 - ・上司や先輩職員が理解しきれていないため、教育を受ける側に伝わりきらない。
 - ・時には厳しい指導が必要かと思うが、訓練で間違えたから、ミスしたからただ声を荒げるなどまだまだある。消防職員も人間であり、各個人性格等違うため、同じ指導方法では成長しない。
- 訓練に掛ける時間が不足している。
- ・訓練の目的、注意点の説明をして実施するが、効果確認訓練でさえ、消化しなければいけないと思うほど、訓練する時間がない。
 - ・消防の勤務の特殊性に加え、各種業務や事務処理に追われて訓練に十分な時間を費やすことができていると思う。
 - ・訓練を行うまでに計画書を作成し、許可を得なければ訓練できないことになっているが、実際が計画書等は後出しで形骸化しており、事務で費やす時間ばかりが増えている。

Q21 全体をとおして、今後同じような事故を繰り返さないために、組織としてどのような取組みが必要であると思いますか。【自由記載】

(主な回答の類型とその件数)

事務を削減し、研修や訓練の時間を確保すること	135 件
年代を問わず意見を集約し、適切にフィードバックされる環境づくり	77 件
事故の定期的な振り返りや、訓練及び活動後の検証を行うこと	46 件
実災害を想定した訓練を行うこと（訓練施設の創設を含む）	38 件
署間や所属間の連携強化及び活動の統一	35 件

(主な回答の内容)

- 事務を削減し、研修や訓練の時間を確保すること
 - ・庁舎見学や見せる訓練が増えたことで業務量も増加しているため、受入制限を検討する。
 - ・業務のスリム化を図り、訓練時間や職員同士のコミュニケーションのための時間を確保する。
 - ・再任用職員の業務内容を見直し、事務業務により参画する運用とする。
- 年代を問わず意見を集約し、適切にフィードバックされる環境づくり
 - ・危険を覚知した際に現場本部に適切に伝えることができ、かつ、出動隊員全員が把握できるようにする。
 - ・隊の編成や訓練等で、現場職員の意見を反映させることができる体制づくり。
 - ・現場活動を行う職員からの意見を集約し、基準やマニュアルに反映させる。
- 事故の定期的な振り返りや、訓練及び活動後の検証を行うこと
 - ・訓練や活動後にミーティングを実施し、安全管理を含め、活動の評価点や反省点を検証する。
 - ・基準の見直しを行う際は、訓練により有効性の検証を行った上で反映させる。
 - ・活動後の検証時に、自隊のみならず他隊からの意見も聞く機会を設ける。
- 実災害を想定した訓練を行うこと（訓練施設の創設を含む）
 - ・複数隊での活動に慣れるため、小隊内の訓練だけでなく、中隊編成以上の訓練を実施する。
 - ・全ての署で同様の教育、訓練が実施できるよう、訓練施設を充実させる。
 - ・訓練（教育）に当たっては、映像を活用したものも実施する。
- その他
 - ・安全管理を含め訓練を実施し、全職員の安全管理に対する意識を向上させる。
 - ・職員の配備先や役職による業務量の著しい不均衡を是正する。
 - ・消防大学校や他自治体で導入している最新の技術や資機材を柔軟に取り入れる。